

一般質問



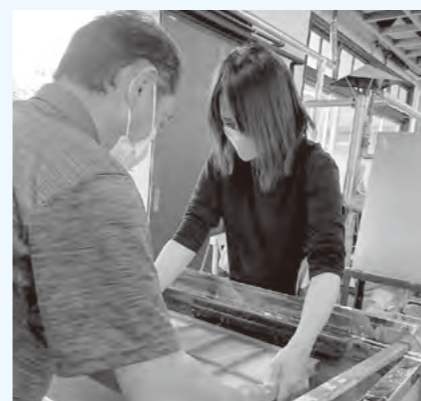
たかせ つとむ 議員
高瀬 勉 議員
が町に問う！

地場産業

Q 細川紙の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されて8年半が経過するが、今日までの取組は。また、コロナ禍における普及宣伝等の工夫は。

A にぎわい創出課長 登録以来、石州半紙・本美濃紙と三紙連携事業を行ってきました。また、コロナ禍では、イベントの実施や参加が制限される中であっても、新聞・テレビ・SNSを含むメディアへの対応を通じ、普及宣伝等に努めています。

Q 議会も「地酒等による乾杯条例」の制定で、その普及に努めてきたところだが、ポストコロナで多くのイベントが再開される今こそ「乾杯」に要する費用を町で補助し、需要の拡大につなげては。



和紙体験学習センターでの紙漉き体験

コロナ禍で和紙の宣伝等は

答弁 各メディアを通じ宣伝等に努めています

杯」を活用した地酒等の宣伝を行うことは、酒蔵や飲食店の活性化につながるものと捉えています。関連事業者や商工会と連携し、費用を含めた仕組みづくりを検討します。

Q 建具・和紙・地酒等の地場産業に係る町長のトップセールスは。

A 町長 今後も、あらゆる機会を通じてPRに努めていきます。



たかはし たかひと 議員
高橋 功人 議員
が町に問う！

野球場予定地

Q 町民アンケート等で要望がある「子ども広場」等について検討したことはあるのか。

A 子育て支援課長 充実してほしい支援策として「安心して集まれる身近な施設の充実」は41.3%とニーズが高い結果でした。

Q 幼少期の子供の成長にとつて、外遊びは効果があると聞くが。

A 生涯学習課長 関係課と連携を図り、体育施設全体の在り方を含め検討を進めていきます。

Q バイパスが開通し、アクセスが向上した。様々なイベント会場としても活用が可能ではないか。

A 生涯学習課長 親子が集い、楽しめるような場所として利用できるか検討します。



眠っている町の財産を生かしたい

子ども広場として活用を

答弁 関係課と連携し検討を進めます

Q 野球場予定地を子ども広場に転換する場合の問題点はあるのか。

A 生涯学習課長 総合振興計画に位置づけられ、用途変更のためには政策変更の決定が必要です。

Q 総合運動場の基本的な用途は生涯スポーツの推進であり、予定地を「広場」として使用するの



たかはし さゆり 議員
高橋 さゆり 議員
が町に問う！

防犯カメラ

Q 安全・安心なまちづくりについての具体は。

A 防災地域支援課長 防災行政無線やおがわ情報メール、ホームページ等で発信し、町民の意識向上を図っています。犯罪を起ささせにくい環境づくりでは、ウルトラ防犯パトロール隊による見守り活動や、町職員による青色回転灯パトロール車による見守り活動を実施しています。

Q 様々な犯罪捜査で防犯カメラが活用されているが、当町における設置状況は。

A 防災地域支援課長 役場庁舎東側の来庁者駐車場・役場庁舎・図書館・リリックおがわの公共施設4か所にあります。

Q 町民の安全・安心のためにも防犯カメラをもっと設置すべきと



庁舎裏口に設置された防犯カメラ

当町における設置状況は

答弁 公共施設4か所に設置しています

考えるが。

A 防災地域支援課長 防犯カメラを設置することにより、犯罪を起させにくい環境づくりが促進され、一定の抑止力につながるものと考えます。一方で防犯カメラにより常時、不特定多数の町民等を撮影することは、個人の肖像権やプライバシーの侵害につながる恐れがあり、慎重に進めていきます。



いнокичи りゆういち 議員
井口 亮一 議員
が町に問う！

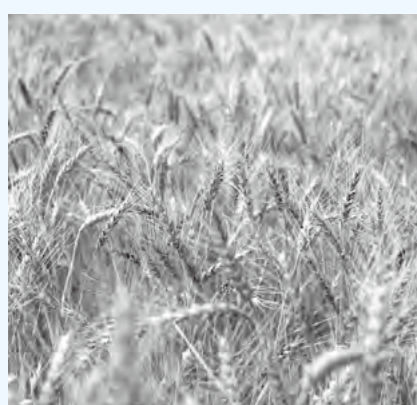
慣行農業

Q 学校給食に県内産小麦100%の「地粉うどん」や「さいたまロールパン」が提供されている。当町における小麦の作付面積の推移等は。

A 環境農林課長 令和3年産から大きく減少しています。要因としては、経営所得安定対策の対象作物として、飼料米の栽培が増加していることが挙げられます。

Q 近隣では、昔ながらの品種である「農林61号」の増産に取り組んでいるとのことだが。

A 環境農林課長 嵐山町の農業組合法人では、農業従事者の高齢化や後継者問題の解決に向け、農林61号を復活し、作付けの拡大を図る中で、各方面からの需要に应运っています。また、純正の農林61号を用いて懐かしの「めん」



「麦秋」収穫を迎えた初夏の小麦

小麦の生産奨励で後押しを

答弁 慣行農業の活性化を図るチャンスです

を復刻する取組「めん61プロジェクト」を通じて、地域農業の活性化を図っています。

Q 地場産の小麦を用いて、慣行農業の振興・後押しを。

A 環境農林課長 農林61号をはじめとした小麦の生産は、有機農業だけでなく慣行農業の活性化を図る上でもチャンスと捉えています。

令和2年97トン→令和3年70トン

埼玉県北部地域の方言で「うどん」を指す

必ず投票に行きます。(Y・Oさん 10代)

20代・30代の若い人たちの投票率が上がるといいねえ。(N・Nさん 60代)

地縁も大切だけど、各候補者の「政策」に注目しています。(S・Mさん 55歳)